

あんず だより

2026

VOL.21

令和8年4月1日発行

- 創立80周年を迎えて(千曲中央病院のあゆみ)..... 2
- 認定看護師コラム..... 4
- 千曲中央病院/学術集会のご報告..... 5
- 地域の医療機関の役割分担と連携体制の現状..... 6
- 遥はるばると一集いし人々とともに 大西益太郎伝 その21 7
- 外来担当医一覧表..... 8

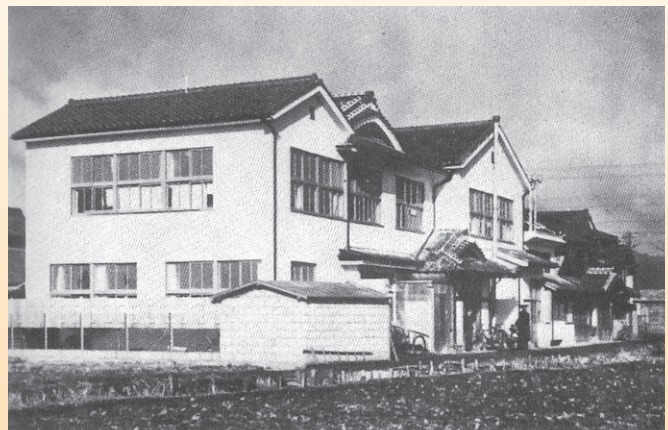


80th Anniversary

ありがとう
そして、これからも

診療科案内

- 内科
- 肝臓・消化器内科
- 腎臓内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 糖尿病・内分泌・代謝内科
- 消化器外科
- 肝臓・胆のう・膵臓外科
- 整形外科
- 脳神経外科
- 心臓血管外科
- 泌尿器科
- 皮膚科
- 婦人科
- 救急科
- 放射線科
- 麻酔科
- リハビリテーション科
- 歯科
- 人工透析センター
- 心臓病センター



1955年：旧大西病院全景

CHIKUMA CENTRAL HOSPITAL

TEL.026-273-1212 FAX.026-272-2991

URL <http://www.chikuma-chp.com>



千曲中央病院
ホームページ



創立80周年を 迎えて

これまでの感謝、
これからも地域とともに

千曲中央病院は、2026年7月1日に創立80周年を迎えます。これまでの年月を重ねてくることができたのは、患者さんやご家族の皆さま、そして地域の皆さまの支えがあったからこそです。病院職員一同、心より感謝申し上げます。創立80周年を記念して、本誌では4月号と7月号の2回にわたり、病院の歩みとこれからのを紹介します。

地域とともに
歩み続けて
千曲中央病院の
あゆみ



1952年：大西病院として開設

千曲中央病院は、昭和21年（1946年）7月1日、創設者・大西益太郎が「地域に医療の灯をともし」という高い志を抱き、埴科郡杭瀬下村（現・千曲市）に「大



創設者 大西 益太郎

西医院」として開設しました。創設者である大西益太郎は、「病を診るだけでなく、人を診る医療」を信念に掲げ、地域に寄り添う医療の実践に力を注ぎました。戦後の混乱期であり、医療体制が十分ではなかった地域において、住民一人ひとりと向き合いながら医療を提供してきた姿勢は、千曲中央病院の原点となっています。そして、昭和27年1月に病院として承認され、病床数や名称の変更などが行われ、今日に至っています。



1953年：医療法人として組織化

二代目の大西雄太郎は、医療技術革新や社会構造が変化する中で、病院運営の近代化と地域医療連携の強化に尽力して参りました。大西雄太郎は、「地域医療は医療機関だけで成り立つものではなく、住民・行政・医療者が手を取り合つて築くべき公共財である」と常々語っており、地域包括ケアの原点ともいえる思想を掲げ、その思いは今の医療・介護連携や在宅医療の取り組みに確実に生きています。さらに、医療人としての責務を広く果たすべく、第23代長野県医師会長の重責を担い、長野県全体の医療政策の発展にも大きく貢献

して参りました。その指導力と先見性は、当院が地域にゆるぎない信頼を築く大きな支えとなり、今日の基盤を形成しました。その後病院は、時代のニーズに応じて体制を整え、救急医療、入院医療、リハビリテーション、在宅医療、介護・福祉分野へと役割を広げ、地域とともに歩みながら発展を続けてきました。さらに、予防医療の拡充の必要性から、健康管理部を発足させ、院内では人間ドック、院外では検診車による予防医療活動を開始しま

加えて、寝たきりの患者さんを抱えるご家族の要望から、在宅で安心して療養が続けられるよう訪問看護ステーションを開設しました。診療所から、地域医療を支える中核病院へと、千曲中央病院の歩みは地域医療とともに歩んできた歴史そのものであり、創設者の高い志、二代目の指導力と社会貢献、そして長きにわたり献身してきた多くの職員の努力が織り重なって築かれた尊い財産でもあります。1946年の開院以来、千曲中央病院は、地域の身近な病院として歩み、地域住民の生命と健康を守るために今日まで尽力して参りました。時代とともに医療を取り巻く環境は大きく変化してきましたが、「安心して相談できる病院でありたい」という思いは、今も変わらず大切にしています。

7月号では、現院長の大西禎彦の想いや、これからの千曲中央病院の目指すべき姿を掲載します。

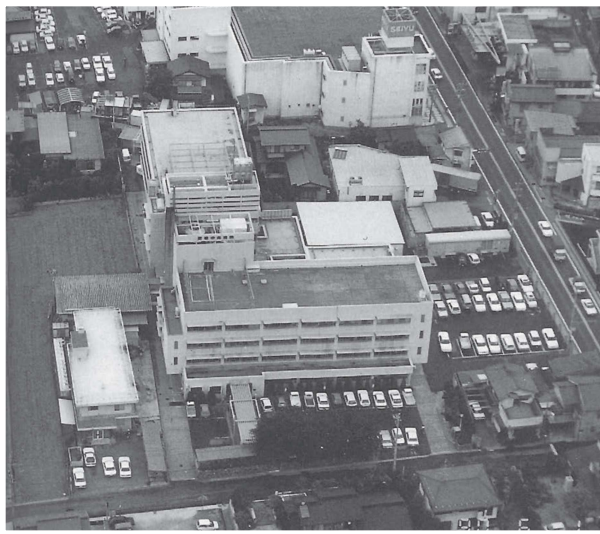
開院から現在までの歴史を年表にてご覧下さい。

千曲中央病院 年次沿革 (沿革表)

- 昭和21年 1946年**
大西益太郎が「大西医院」を開設。これが病院の原点となる創設の精神は「病を診るだけでなく、人を診る医療」
- 昭和27年 1952年**
「大西病院」を開設（一般6床、結核14床）
- 昭和28年 1953年**
医療法人泰山会大西病院と改称
- 昭和39年 1964年**
救急指定病院として承認
- 昭和42年 1967年**
更埴中央病院と改称
- 昭和46年 1971年**
大蔵大臣認可の特定医療法人承認
- 昭和56年 1981年**
大西雄太郎 院長に就任
- 平成4年 1992年**
人間ドック、検診事業を開始
- 平成8年 1996年**
訪問看護ステーション「アプリコット」開設
- 平成9年 1997年**
老人保健施設「ひまわり」開設
- 平成14年 2002年**
人工透析センター開設
- 平成17年 2005年**
医療法人大西会 千曲中央病院と改称
- 平成19年 2007年**
大西禎彦 院長に就任
- 平成24年 2012年**
大西雄太郎 会長・名誉院長就任（同時に大西 禎彦 理事長・院長継続）
- 令和7年 2025年**
法人名変更により「社会医療法人大西会 千曲中央病院」と改称



21世紀：地域包括ケア推進と社会医療法人への認定



1950～60年代：病床増床・救急指定取得

第28回 千曲中央病院学術集会のご報告

2月に開催された第28回院内学術集会には、108名の職員が参加し、今年も実りある会となりました。一般演題では16名の職員が、日頃の診療や業務の中で感じた疑問や課題を掘り下げ、改善の工夫や成果を発表しました。どの発表も現場に根ざした内容で、地域の皆さまにより良い医療を届けたいという思いが伝わるものでした。座長の先生方も丁寧に準備を重ねてくださり、落ち着いた雰囲気の中で充実した議論が行われました。発表者・座長の皆さまに心より感謝申し上げます。

今年の特別講演では、長野市民病院チーム DIGITAL2.0 エバンジェリストの住昌彦先生をお招きし、「AIと共に進化する医療」についてお話いただきました。AI（人工知能）というと難しく聞こえますが、住先生は医療現場でどのように役立つのかを、わかりやすく紹介してくださいました。

医療の現場では、診察や処置だけでなく、カルテの記録や紹介状（診療情報提供書）の作成など、多くの「書く仕事」があります。これらは正確さが求められるため時間がかかり、医療者にとって大きな負担となってきました。講演では、AIが診察室での会話を理解してカルテの下書きを作ったり、検査データを整理して紹介状の原稿を作ったりする未来が、すぐそこまで来ていることが紹介されました。

実際に、当院でも「Ubie文書生成AI」が導入され、少しずつ活用が始まっています。AIが文章を作ると聞くと、「医療者の仕事が減ってしまうのでは」と心配される方もいるかもしれませんが、住先生は、AI導入の目的は「医療者が患者さんと向き合う時間を取り戻すこと」であると強調されました。パソコンに向かう時間が減れば、患者さんの表情や声の調子



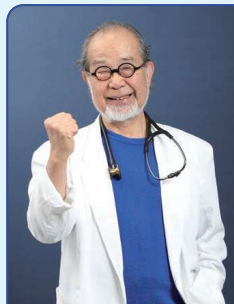
に気づく余裕が生まれます。医療の原点である「寄り添う姿勢」をより大切にできるようになるのです。

さらに将来は、電子カルテに蓄積された病歴や検査結果、画像データなどを AIが総合的に読み取り、診断や治療方針の提案まで行う時代が来るといわれています。医師とAIが協力しながら患者さんを支えることで、より安全で質の高い医療が実現する可能性があります。

今回の学術集会は、職員の発表と、医療の未来を見据えた講演が合わさり、職員一人ひとりにとって大きな刺激となりました。地域の皆さまに安心していただける医療を提供するため、これからも学びと挑戦を続けてまいります。来年の集会でも、さらに多くの成果をご報告できることを楽しみにしております。

*エバンジェリスト (Evangelist)：もともとは「伝道者」を意味する言葉で、現代では「ITなどの専門知識をわかりやすく広める人」を指します。

世話人 学術委員会委員長・副院長 宮林千春



千曲中央病院創立80周年記念 第14回 市民のための健康講座

創立80周年を記念して、鎌田 實先生を講師にお迎えし「市民のための健康講座」を開催いたします。多くの皆さまのご来場をお待ちしております。

日 時：2026年6月6日(土) 13:30受付開始・14:00開演
会 場：信州の幸 あんずホール 大ホール
メインテーマ：「楽しく生きよう」
特別講演：「がんばらないけどあきらめない
～人生100年時代を健康で幸せに生きる～」

入 場 料：無料

講師：鎌田 實先生
諏訪中央病院名誉院長
地域包括ケア研究所長



人間ドック実施指定施設認定!! 千曲中央病院 健康管理センター

令和8年3月1日付けにて公益社団法人全日本病院協会より、人間ドック実施指定施設として認定を受けました。

これまでも人間ドック健診結果に基づき生活習慣改善や、健康増進のための指導、受診勧奨に努めてきましたが、より一層の充実を図ってまいりたいと思います。



認定看護師コラム



認定看護師ってどんな看護師ですか？



はじめまして。皮膚・排泄ケア認定看護師の土川ひろみです。認定看護師について簡単にご紹介いたします。認定看護師とは、特定の看護分野において高度な知識と技術を持ち、患者さんのケアをより専門的に支える看護師のことです。



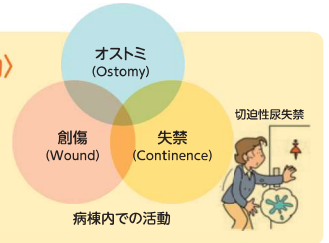
～主な活動内容をご紹介します～

- 1 専門的な治療や看護が必要な患者さんやご家族に対して、認定看護師としての知識と経験を生かしその人にとって最適なケアを提供します。
- 2 看護師に対して、専門的な知識や技術をわかりやすく教え、質の高い看護ができるようにサポートします。また、現場で困っていることや疑問について相談を受け、認定看護師としての専門知識をもとに、一緒に改善策を考えていきます。

〈皮膚・排泄ケア分野の院内活動〉



- ① 創傷(Wound)…床ずれ(褥瘡)などの創のケア
- ② オストミ(Ostomy)…人工肛門・尿路ストーマを造設する予定の方のケア、造設後のケア
- ③ 失禁(Continence)…排泄ケア



お家で介護をされている方へ

おとな用おむつを購入する時のワンポイントアドバイス

おむつと尿とりパットは普段の動きに合わせて種類を選択しましょう



テープ型おむつ/パンツ型おむつの選び方



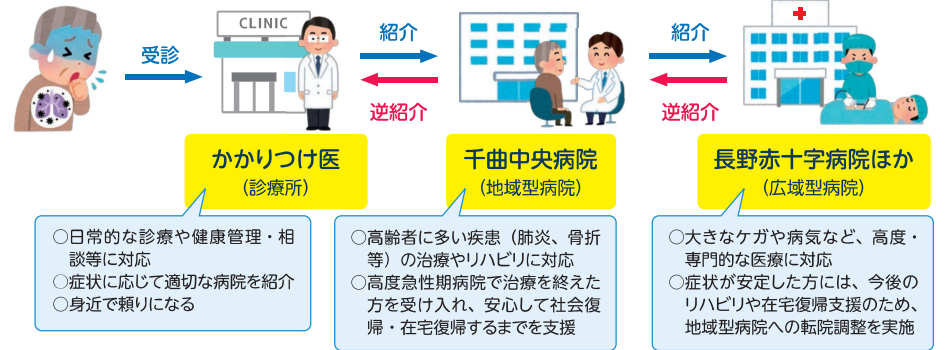
尿とりパットの選び方



適切なサイズを選ぶことにより漏れ防止に繋がります

地域の医療機関の役割分担と連携体制の現状

地域の医療資源は限られているため、各医療機関は役割を分担し、連携して地域医療を支えています。



「地域型病院」である 当院の役割



千曲中央病院 (地域型病院)

【当院の役割】

千曲中央病院は長野県が策定した「医療提供体制のブランドデザイン」の中で示された地域住民の暮らしを支える「地域型病院」として、今後も千曲地域の地域包括ケア体制を支える役割を担います。

- ① 早期治療を目指す **急性期病床**
急性期病床は、外傷・手術・感染症など集中的な治療を行い、状態の早期安定化に向けた医療を提供します
 - ② 在宅復帰を目標にリハビリテーションを行う **回復期病床**
回復期病床は、急性期の治療後に、すぐに在宅や介護施設に移行するには不安のある方などを対象に、患者さんのご家族と一緒にリハビリ計画を考え、幅広い専門職種のスタッフにより、患者さんが安心して住み慣れた地域で生活できるようサポートします
 - ③ 長期にわたり療養が必要な患者が入院できる **療養病床**
療養病床は、寝たきりの方など常に医療・介護が必要だが在宅では対応が難しい場合に長期間の療養生活を提供します
- 必要なときに適切な医療を提供し、患者さんの状態にあった病床を選択することで、急性期の治療から在宅復帰までを継続して支援することを目指しています。

住民の皆様をお願いしたいこと ～上手な医療のかかり方を心がけましょう～

医療機関を受診するときは、まずは「かかりつけ医」を訪れることをお勧めします

具合が悪くなった時など最初の医療機関を受診する際に、とりあえず大きな病院には設備が揃っているし医師も多いから安心だろうと訪れたら長い待ち時間にうんざりした経験はありませんか。

確かに大きな病院には治療機器があり専門医も多いですが、それは高度で専門性が高い医療を提供する役割を担っているからです。患者さんの状態に応じた質の高い医療を効果的に提供できる体制を構築するため、医療機関は役割を分担しています。

「かかりつけ医」に相談を

かかりつけ医とは、日常的な診療や健康に関することを何でも相談できる身近な医師です。診療所は大きな病院と比べると待ち時間は比較的短いところが多いです。体調の変化や症状が気になるときなど、まずはかかりつけ医を受診しましょう。入院や検査が必要な場合は、大きな病院や専門医を紹介します。

上手なかかり方をすることで医療費や待ち時間、さらには医療機関の負担も軽減されます。

かかりつけ医が休診等で連絡が取れない場合は、こちらも利用できます。

長野県救急安心センター

#7119

各種のアドバイスが受けられます。

小児の緊急相談は 24時間 無料です。

緊急時は迷わず 119番

「選ばれる」と「集いし人々とともに 大西益太郎伝」(その二十一)

著者・清水 協 (1996年7月1日発行)

千曲中央病院創始者 大西益太郎氏の伝記です。清水協氏の執筆により一九九六年七月一日に発行されました。シリーズとして掲載していきますので、ご期待ください。

※表紙や地名は発行当時のまま

第二章 学窓の頃

三 東北帝大にて 虚無を乗り越えて 重圧と虚しさ

しかし、彼の生真面目さと心の不安は、「やる気」を押しつぶす重圧となつてのしかかったのであった。もし彼が、かつてのように体も精神も成長期にあったならば、あるいは浪人暮らしの疲れが抜け、心が十分に弾力を取り戻していたならば、それらは重圧ではなくエネルギーとなつていたのかも知れないのであるが…。

見知らぬ土地に来て、見知らぬ学生達に交じつて学ぶ彼を、それまで経験したことのない変調が見舞つたのは、実際の講義が始まつて間もない頃だった。専門・教養などの講座に出席しても、頑張りという意思に反して少しも気持

ちが前を向かないのである。教官の話に集中しようと思つても、知らぬ間に気持ち離れてしまふ。気がついた時は話が進んでいる。慌ててテキストを読み返し、理解しようとするが判らない。その間、講義はさらに先へと行つていく。それが悪循環となり繰り返す。周りを見れば学生達は、はつらつとノートを取り、質問をする。

寮生活の彼は、帰つてから友人達に判らない所を聞くこともできた。しかし、簡単な事をあまりに何度も聞きに来る益太郎に、次第に彼らは軽蔑の態度を露にするようになった。

そんな状態では、自分の机に向かつて、焦るばかりで少しも身が入らなかつた。本を読もうとしても集中せず、相部屋の友人のベンを走らす音さえも耳について、気持ちが乱れた。

疲れているんだ、疲れさえとれば…。

しかし、焦りは彼から安んずさへ奪つていた。眠ろうとしても眠れない、休んでも気持ちには休まらないという日々が続くようになった。

こうしてひと月が過ぎ、益太郎は心身ともに疲れ切つていた。またこの頃になると、彼の心には新しい不安が芽生えていた。それは、果たしてこの状態を乗り越つたとしても、自分の体が持つだろうかというものだった。

死にもの狂いで勉強すれば、まだ何とかなる。いや、何とかなつたとしよう。しかし、それでは彼らと同じ道をたどつてしまうのではないのか…。

彼らとは、結核で死んだ高校時代の友人のことだった。

幸い自分には今、悪化の兆候はない。この間も医者、ほぼ自然治癒の状態だといつていた。だが、こんな身にすり減らすようなことをしていれば再発し、いずれば同じ運命に見舞われるのではなからうか。いや、もともと人より体力のない自分か…、きつとそうなるのではなからうか…。

こうして彼は、容易には回復できない心の迷路に落ち込んでいった。

益太郎は、その後二週間あまり学校を休んだ。寮の側の配慮でその間、六畳ほどの部屋を一人で使うこともできた。その結果、学業

についての強迫的な意識は薄らぎ、講義に出るだけの集中力・思考力も回復していった。しかし、自分の体力は、病氣は大丈夫だろうか、という不安の思いだけは、何度振り払つてもぬぐい去ることはできなかった。

病氣が悪化してしまつては、死んでしまつては、これまでの努力も何もかも、すべて無意味だ…。エネルギーと弾力を取り戻したはずの心の中を、虚しさばかりが駆け回り始めたのである。

かつて高校を、大学をめざして頑張つていた頃。あの頃は、努力は必ず華開くものと思ひ、疑わなかつた。あの親しい友が死んだ時でさえ、彼の分も自分が生きて目的を実現するんだ、そんな気持ちに燃えることができた。自分は大丈夫、自分は何か守られている。だから病氣も気持ちも押し潰さず、何とかなると思ひ、必死に頑張つた。だが、病氣は、死は確実に自分だつてやつてくる。そうすれば、何もかも報われなくなる。無になつてしまふ…。

そのような思いが、心の中で堂々めぐりするばかりだった。彼は校医の指示もあつてしばらくの間休学し、郷里に帰ることになつたのである。

(続く)

あんずだより 令和八年四月一日発行／長野県千曲市杭瀬下五八番地／社会医療法人大西会千曲中央病院／発行責任者千曲中央病院理事長・院長大西禎彦 TEL.026-273-1212 FAX.026-272-2991

診療科	専門		月	火	水	木	金	土 ※午前のみ
内科	一般内科	午前	日大医師		松本(史)			月城 (第3週土のみ)
		午後	日大医師			市川(智)		
	消化器	午前	窪田 石田	宮林 小野	窪田 小野	宮林(肝臓外来) 石田		宮林・窪田 松本(晶) 石田
		午後	石田	昭和大医師	昭和大医師 (受付16:00まで)	宮林(紹介のみ) 松本(晶)・石田	松本(晶)	
	内分泌代謝	午前		島田	横田	春日(予約のみ)	関戸	
		午後	山内 (受付16:00まで)	島田 (受付15:00まで)	横田 (受付15:00まで)	春日 (予約のみ)	横田(受付15:00まで) 関戸(受付15:00まで)	
	腎臓	午前					大西禎彦	大西禎彦
午後		大西禎彦						
呼吸器	午後のみ		神田(第2・4週のみ)					津島(第4週のみ) (受付11:00まで)
循環器 心臓病センター	午前	山田 山本	日大医師	東海	東海 山本	日大医師	日大医師	日大医師 山本(第1・3週のみ)
	午後	山田 山本	日大医師	東海(予約のみ) 太田(受付16:00まで)	山本	日大医師 (受付16:00まで)		
外科	一般外科 消化器外科 肝胆膵外科	午前		長谷川 大久保		加藤	大久保	大久保(膵臓外来/ 予約制第3・5週のみ) 加藤 (第1・4週予約のみ)
		午後		加藤				
	心臓外科	午前 午後					八巻 八巻	
整形外科	一般整形	午前	傳田	江崎	村田		吉田	信大医師 (受付11:00まで)
		午後	傳田 (受付16:00まで)	江崎 (受付16:00まで)	村田 (受付16:00まで)		吉田 (受付16:00まで)	
	膝・股関節	午前	森岡(9:30~)		森岡(9:30~)			
		午後					森岡(予約のみ)	
	脊椎脊髄	午前		矢澤		矢澤(予約のみ) (紹介のみ)	矢澤	
午後				矢澤(骨粗鬆症) (予約のみ)				
上肢	午後				磯部(第2・4週のみ) (受付16:30まで)			
脳神経外科	午前	市川	市川	斎藤	市川	市川		
	午後			斎藤				
泌尿器科	午前	逸見 (予約外の受付11:00まで)	逸見 (予約外の受付11:00まで)		逸見 (予約外の受付11:00まで)	逸見 (予約外の受付11:00まで)	逸見(予約のみ)	
皮膚科	予約制	午前	今井	今井	今井	今井		
		午後	今井(受付16:00まで)		今井(受付16:00まで)	今井(受付16:00まで)		
婦人科	完全予約制	午後	山本(14:00~16:00)					
救急科		午前 午後	岡田					
歯科		午前 午後	大西聖彦・大西真理					

形成外科につきましては、しばらくの間休診となります。ご迷惑をおかけいたします。

1. 午前受付 8:00~12:00
2. 午後受付 12:00~17:00
【午前診察】 9:00~
【午後診察】 14:00~ ※土曜日は午前中のみ
3. 急患等でお待たせする場合がありますが、その際にご容赦ください。
4. 休診日：日曜日・祝祭日、第2土曜、第3木曜、年末年始、7月1日(創立記念日)
5. 医師の都合により急遽休診・変更となる場合がございますので、ご了承ください。
6. 予約および予約変更の受付 月~金曜日 15:00~16:00(歯科は除く)